

1 研究テーマ

子ども一人一人の読む力を高める国語科学習指導の研究
～文学的文章の指導を通して～ (1/2年次)

2 研究の柱, 仮説, 視点

(1) 柱1 教師の授業力を高める工夫

【仮説】

文学的文章の指導内容の系統性を明らかにし、学習活動や発問を工夫すれば、子ども一人一人が文学的文章を豊かに読む力を身につけることができるのではないかと。



【視点】

- ①文学的文章の指導内容の系統性を明らかにする。
- ②系統性を踏まえた学習活動や指導内容に応じた思考を促す発問を授業に組み込む。
- ③文学的文章を豊かに読み取らせるために、授業への言語活動の取り入れ方を研究する。
- ④共通実践事項の設定・実践
(音読・ノート指導・サイドラインの引き方・評価・発表話型)
- ⑤児童の実態把握

(2) 柱2 確かな学力を支える言語環境の工夫

【仮説】

言葉への関心を高めたり知識を身に付けたりできる言語環境を整えれば、子ども一人一人が文学的文章を確かに読む力を身に付けることができるのではないかと。



【視点】

- ①言語環境の整備
 - ・校内設営(国語コーナーの設置・更新)
 - ・教室設営(学習計画の掲示, 生活化を図るための教材・教具) 新聞・国語辞典など
- ②言語活動の共通実践
- ③読書活動(読書指導部・国語部との連携)
- ④家庭学習の習慣化

3 研究の実際

(1) 研究授業

① 第1回研究授業 平成23年6月6日(月) 2年生

ア 授業内容

単元 お話を読んで、かんそうを書こう

教材 「スイミー」 レオ=レオニ作/谷川俊太郎訳(光村図書2年上「たんぼぼ」)

イ 授業及び授業研究から

- 赤い魚とスイミーの気持ちを対比させるところを重視した。
- ワークシートに書かせる際の指示を「気持ちを考えよう。」から「言葉の続きを考えよう。」へと指示を変えたことで、役割演技につながった。
- 登場人物に共感させるために、割演技を行ったり、場所の設定(お面や岩の準備)を工夫したりした。子どもたちも意欲的に役割演技に取り組んでいた。

ウ 指導講話より

- 文学的な文章を読むとは、物語の構成要素がわかること。

構成要素

時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化、主人公などの登場人物、登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化、事件の展開と解決など

- 毎時間の授業で、その時間にどんな力を身につけさせたいのか明確にする必要がある。
- 叙述を基に想像することが大切。
- 動作化は、言葉で表現できないことを補うので低学年で有効である。

(2) 専門部の実践

① 理論・授業班

- ・本校における「文学的文章を読む力」をどのように捉えるか
- ・めざす子ども像の設定
- ・「文学的文章の指導事項及び言語活動」の系統性を明らかにし、研究授業にや日々の授業に生かす。

② 資料・環境班

- ・発表話型・ノート指導の共通理解
- ・校内の国語的学習環境の整備(国語コーナーの計画)
- ・実態調査の実施と分析

(3) 学年部の実践

① 低学年部

ア 学年部研修テーマ

- ・想像を広げて豊かに読み取らせる工夫

イ 共通実践事項

- ・言語環境の整備をする。

- ・発表時の声の大きさの指導・聞く態度の育成を行う。
- ・動作化や役割演技を授業に取り入れる。
- ・理由づけを含むペアでの交流活動

② 中学年部

ア 学年部研修テーマ

- ・指導事項を身に付けさせるために、言語活動を取り入れる

イ 共通実践事項

- ・授業に意見交流（練り上げ）を取り入れる。
- ・文学的文章を読んで書いた紹介文や感想文などを交流させる。

③ 高学年部

ア 学年部研修テーマ

- ・言語環境の充実と学習形態の工夫

イ 共通実践事項

- ・新聞記事を利用しての日記指導を行う。
- ・練り上げの場で、グループ内意見交流を通して読み取りを深めさせる。

(4) 一人一授業の実践

一人一授業実践として、全職員が研究授業を実施する。(学級担任は国語科・文学的文章の授業実践，専科等については担当教科の授業実践。

第 2 学年国語科学習指導案

平成 23 年 6 月 6 日 (月) 5 校時
2 年 2 組 男子 13 名 女子 14 名 計 27 名
指導者 嶺 あすか

1 単元名 お話を読んで、かんそうを書こう

教材名 「スイミー」 レオ=レオニ作/谷川俊太郎訳(光村図書 2 年上「たんぼぼ」)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに児童は、1 年上「おおきなかぶ」での動作化に始まり、1 年下「くじらぐも」では音読、「たぬきの糸車」ではせりふを考えたり絵を描いたりする活動を通して、場面の様子を想像を広げながら読むという学習をしてきている。また、感想をまとめたり、それを交流したりする活動に関して、1 年下「くじらぐも」では登場人物に手紙を書いたり、「たぬきの糸車」ではすきなところを絵に描いたりしてきた。さらに、2 年上の「ふきのとう」ではすきなところやおもしろいと思ったところをノートに書き抜き、そう思ったわけを書く活動を経験している。

本教材は、主人公スイミーの行動によって場面が展開していく。文章はスイミーの行動に着目しやすく書かれているので、スイミーの行動を通して物語の展開を押さえていくことが無理なくできると考える。主人公の目を通して見る場面の様子を、豊かに想像させていきたい。また、スイミーに言ってあげたいことを書きそれを交流する活動を通して、同じ場面でも違う感想があることや、自分と同じ感想をもつ人がいることを確認し合うことは、今後の「読むこと」への大きな動機づけになると考える。

ここでの学習が、2 年上「お手紙」で人物の行動や会話に着目して音読劇をする活動や、3 年上「海をかつとばせ」で読んで考えたことを発表する活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本教材「スイミー」は、仲間と体の様子が違うスイミーが大きな魚によって大切な仲間を失いひとりぼっちになった後、素晴らしい海の生き物を目にして再び元気を取り戻し、新しく見つけた仲間と共に協力して大きな魚を追い出し楽しく海の生活を続けていくという物語である。指導に際しては、挿絵や本文の言葉を大切にし豊かに想像を広げながら、主人公と共に喜び共に悲しむ経験をさせ、読む面白さや楽しさを感じ取らせていきたい。

また本教材は、比喩や体言止め、倒置法といった多様な表現方法によって、海の中の情景や主人公の気持ちが生き生きと描き出されている。指導に際しては、比喩を使うことで情景や様子が生き生きと伝わることに気付かせ自分の文章にも使えるよう、「～のような」や「～みたいな」を使った短文作りを十分行わせたい。

(3) 児童の実態 (調査人数 26 人 複数回答あり 調査日 平成 23 年 4 月 27 日)

本単元のねらいや学習内容に関する児童の実態は、次の通りである。

1 国語の学習は好きですか。

- ・ はい 23人(88.4%)
- ・ いいえ 2人(7.6%)
- ・ どちらでもない 1人(3.8%)

「はい」の理由

- 発表がたくさんできるから
- 漢字などをたくさん覚えられるから
- みんなと一緒に学習できるから
- いろいろなお話を読むのが好きだから
- 友だちの考えを聞けるから
- 音読するのが楽しいから
- いろいろな登場人物の気持ちなどを考えるのがおもしろいから

「いいえ」の理由

- 漢字が難しいから
- 楽しくないから

「どちらでもない」の理由

- 楽しいときもあるけど、難しいときもあるから

2 国語の学習で好きな活動は何ですか。(複数回答)

- ・ お話を読むこと 10人
- ・ 音読すること 11人
- ・ 発表すること 14人
- ・ 友だちや先生の話聞くこと 12人
- ・ 字(漢字も)を書くこと 14
- ・ 文を作ること 15人
- ・ 読んで、わかったことをまとめること 7人
- ・ 自分の思ったことを書くこと 11人
- ・ 友だちと話し合いをすること 16人
- ・ 作品を作ること 15人

(登場人物へのお手紙や、クイズづくり、紙芝居作りなど)

3 海は、どんなところだと思いますか。

- 広い
- きれいな
- 気持ちがいい
- 水がある
- 魚たちがくらすところ
- 太陽の近くにある
- 波が来る
- 波の音が聞こえる
- 砂がやわらかい
- 夕日が沈む

4 海は、好きですか。

- ・ はい 25人(96.1%)
- ・ いいえ 1人(3.8%)
- ・ どちらでもない 0人

「はい」の理由

- 泳げるから
- 楽しく遊べるから
- きれいだから
- いろいろな魚がいるから
- 貝殻がいっぱいあるから
- 冷たくて気持ちいいから
- 広くて青いから
- 波の音が好きだから

「いいえ」の理由

- 寒いから

5 「～のような」「～みたいな」をつかって、文をつくってみましょう。

(れい)「ほうせきのような いし」 「わたあめみたいな くも」

○「～のような」を使った文

- ゆめのようなおはなし
- あめ玉のようなくも
- 月のような石
- 風船のようなボール
- みんなのような書き方
- お母さんとお父さんのような人になりたい
- うさぎのようなわたあめ

「～みたいな」を使った文

くじらみたいな雲	ひまわりみたいな「ひまわに」	
お星さまみたいな石	ペンギンみたいな雲	
ボートみたいなバナナ	海みたいなプール	
さるみたいな木	犬みたいな猫	ライオンみたいなリス

(考察)

本学級の児童は、楽しく学習できた経験から国語の学習を好きな児童が多い。しかし、若干ではあるが国語の学習に対して難しい、楽しくないといった苦手意識を持った児童もいる。導入時の興味の持ち方や学習内容によっては学習への意欲が大きく変わってくると思うので、みんなが楽しく取り組めるような単元の在り方を工夫していきたい。学習活動内容においては、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことといった様々な活動をバランスよく好んでいることが分かる。また、クイズ作りや紙芝居作りなど、単元のまとめの段階の学習活動を楽しかったと答えた児童も多いので、この単元でも最初にまとめの段階での活動を提示して見通しをもって単元全体の学習を進めていけるようにしたい。

本教材に対する実態としては、海にとってもいいイメージをもっている児童が多く、中には海中で暮らす魚たちに興味をもっている児童もいたため、このスイミーの教材には興味をもってスムーズに入っていけると考える。前単元「ふきのとう」で、自分の意見に対しての理由（わけ）の書き方を学習していたので、ほとんどの児童が「～から」の形式で理由までしっかり書けていた。本単元で出てくる「～のような」「～みたいな」を使った比喩表現については、今までの読書経験等から正しい表現の仕方がすでにできている児童もいたが、まだ共通点があるもの同士を例えて表現するということが理解できていない児童も多かった。本文中に出てくる比喩による表現の豊かさを感じ取らせた後、短文作りを十分に行わせ、自分の文章表現として活用できるようにさせていきたい。

(4) 指導上の留意点

以上のような実態を踏まえ、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

つかむ・見通す段階では、「スイミーへのメッセージを書いた大きな魚を作る」という学習の見通しをしっかりと持たせられるようにし、どの場面の感想を書くか、挿絵を選んでから初発の感想を書けるようにしたい。

調べる段階では、教科書P 56を読んで「はじめ」「中」「おわり」の話の構成をつかませたい。その後、主人公スイミーの特徴をしっかりとつかませてから、場面ごとの読みとりに入っていきたい。読みとりでは、スイミーの行動や会話にサイドラインを引かせ、文章表現（比喩、体言止め等）にも気を付けて、スイミーの気持ちに共感しながら読みとりを進めていけるようにしたい。場面ごとの読みとり後に、自分がいちばん言いたいことがあるスイミーの行動や会話を選んでメッセージを魚の形の紙に書き、それを友だちと紹介し合い、みんなで大きな魚を作るという活動へつなげていきたい。さらにその後、再度スイミーを読んだ感想を書き、初発の感想とどのように変わったかを確認させ、友だちと紹介し合うことで、自分が気付かなかったところに着目して感想を書いている友だちのよさに気付かせそれを伝え合えるようにさせたい。







深める段階では、本文中に出てきた比喻表現「～のような」「～みたいな」の例文を紹介し、自分でも使えるように短文作りを十分に行わせたい。さらに、スイミーの作者レオ＝レオニの本を紹介し、表紙を見てどんなお話かを想像させたり実際に読んだりする活動を通して、今後の読書活動がさらに広げられるようにしていきたい。



3 単元の目標

- 人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読み、感想を書くことができる。
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、それをもとに感想を書くことができる。
- 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。
- 様子を表す言葉を使って文を書くことができる。

4 指導計画（全13時間）

過程	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
つかむ・見通す	1	①単元名とリード文を読み学習の見通しをもつ。	①「スイミーへのメッセージを書いた大きな魚を作る」という学習の見通しがもてるようにする。	【関】場面に合わせて、主人公の行動や会話に注意しながら物語を読み、感想を書き、それを友だちに伝えようとしている。
	2	②範読を聞いたり音読したりして感想を書き、紹介し合う。		
		③新出漢字や語句の意味を確認する。		
調べ	3	④P 56を読み、話の構成をつかむ。	④はじめ・中・終わりを確認させる。	【読】場面ごとの様子やスイミーの行動や会話について、感想をもちながら読んでいる。 【読】言ってあげたい場面を選び、自分の経験と結び付けて、考えを書いている。
		⑤スイミーの紹介をまとめる。（一の場面）	⑤主人公の特徴をつかませる。	
	4	⑥二～六の場面を読み、スイミーがしたこと言ったことを書き出し、スイミーの様子や気持ちを考える。（本時は四の場面）	⑥行動や会話にサイドラインを引かせる。	
	5		⑥自分の思いが表現で	
	6		きるように、個別に声かけをする。	
	7		⑦読み取りを通して一番心に残った場面を選んで、スイミーへのメッセージを書けるようにさせる。	
8	⑦自分がいちばん言ってあげたいことがあるスイミーの行動や会話を選んでメッセージを書き、紹介し合う。			
9	⑧メッセージを書いた魚の紙を貼り合わせて、みんなで大きな魚を作る。	⑧大きな魚を追い出したスイミーと魚たちの気持ちを自分の経験と照らし合わせて想像させる。		

	3 学習の進め方を確認する。			○ 学習の流れを確認し、本時の見通しを持たせる。
調 べ る	4 学習課題を追求する。 (1) スイミーがしたこと、言ったことにサイドラインを引く。 ・したこと→青 ・言ったこと→赤 (2) ペアで確認し合ってから、全体で発表する。	14 : 17 (7分)	個人 ペア	○ 4の場面の書き出し「そのとき」とはどんなときかを確認してから課題に入れるようにする。 ○ サイドラインの引き方を再度確認してから、取り組ませる。 ○ 「ペア学習の仕方」を確認して、それぞれで進められるよう声かけする。
	(3) スイミーと小さな魚たちの気持ちを考えて、ワークシートに書く。  小さな魚たちに出会えたスイミーと、岩陰に隠れている小さな魚たちの気持ちを想像してみましょう。 ● 「出てこいよ。～おもしろいものがいっぱいだよ。」  海のすばらしいものを、みんなにも見せてあげたいな。 ● 「だめだよ。大きな魚にたべられてしまうよ。」  だって他のきょうだいたちも食べられてしまったよ。 ● 「だけど、いつまでも～なんとか考えなくちゃ。」  このままではえさがなくなってしんでしまうよ。 (4) グループで話し合う。  スイミーと小さな魚たちに分かれて、考えた気持ちを言い合ってみましょう。 (5) 全体で発表し合う。  スイミーや小さな魚たちになりきって発表しましょう。また、他のグループの発表をよく聞きましょう。	14 : 24 (7分) 14 : 31 (7分) 14 : 38 (8分)	個人 グループ 一斉	○ 三つの「 」が、それぞれ誰の言葉かを最初に確認する。 ○ サイドラインを引いた箇所や挿絵をもとにして、スイミーや小さな魚たちの様子や気持ちを十分に想像を広げながら読み取れるようにする。 ○ なかなか考えが書けない児童に対しては、今までの場面をふり返らせるなど、個別に声かけをする。 【読・書】スイミーや小さな魚たちの様子や気持ちを読み取ることができる。 (サイドライン、ワークシート) ○ スイミーと小さな魚たちのお面をつけさせ、それぞれの役になりきって考えを言い合えるようにする。 ○ 自分の考えを素直に表現できる雰囲気作りに努める。 【表】スイミーや小さな魚たちに共感して、表現することができる。(役割演技)

ま と め る	<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 最後にスイミーが考えていることを想像して、発表する。</p> <p>(2) 4の場面を再度音読する。</p> <p>(3) ふり返しカードで本時をふり返る。</p> <p>6 次時の学習を確かめる。</p>	<p>14 : 46</p>  <p>(9分)</p>  <p>14 : 55</p>	<p>個人</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>個人</p> <p>一斉</p>	<p>○ 「スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」というたたくみかけるような表現に着目して考えさせる。</p> <p>○ ふり返しカードに各自記入後本時のがんばりを賞賛し、次時は最後の5・6の場面を読みとることを知らせ、意欲を高める。</p>
------------------	---	---	---	---

(4) 板書計画